

## ちば中学生県議会の今後のあり方検討ワーキンググループ（第1回） 議事要旨

- 1 日 時 令和6年7月18日（木）午前11時00分～午後0時5分
- 2 場 所 議会棟5階 議会運営委員会室
- 3 出席者 構成員 小路正和議員、伊豆倉雄太議員、田中幸太郎議員、川村博章議員、安藤じゅん子議員、鈴木均議員、仲村秀明議員、石川りょう議員、浅野ふみ子議員  
関係課 議会事務局政務調査課 田岡千子副課長、茂木純子議会広報班長  
教育庁学習指導課 菅根彰宏指導主事  
事務局 島田昌信議事課長、飯嶋茂人議事班長、檜垣沙希主事  
欠席者 なし

### 4 議事概要

#### （1）本ワーキンググループについて

事務局からワーキンググループについて説明。

- ・令和5年11月の各会派代表者会議において、あり方を検討するため6年度の実施は見送ることとされ、令和6年6月の各会派代表者会議においてWGを設置し検討することとされた。

#### （2）ちば中学生県議会について

事務局からちば中学生県議会について説明。（配付資料のとおり）

- ・平成17年9月の各会派代表者会議において、県下中学3年生を対象とし、平成18年6月定例県議会から毎年6月定例県議会の招集日に開催することを決定。
- ・本事業は、県議会への関心を高めるとともに、中学生社会科（公民）における「民主政治と政治参加」の学習内容を、体験・理解してもらうことを目的とする。
- ・開催実績は、平成18年6月から改選期を除き10回開催。令和元年度以降はコロナの影響で開催を見送っている。
- ・見直しの背景は中学3年生を取り巻く環境の変化と主権者教育の推進に関する全国都道府県議会議長会における決議などである。
- ・中学3年生は、受験を控えており、これを考慮して各種の学校行事が1学期に集中し開催が厳しくなっている。
- ・全国都道府県議会議長会の「地方議会に関する地方自治法改正を踏まえた多様な人材が参画するための環境整備等に関する決議」において、議会に対する関心を高め、理解を深める主権者教育を一層推進することやいわゆる出前講座や模擬議会など、議会自らが主体的に行う主権者教育の取り組みに対する支援を講ずることが決議された。

#### （3）開催要領案について

事務局から開催要領案について説明。（配付資料のとおり）

- ・座長に小路議員が選出。
- ・開催要領は案のとおり決定。なお開催要領は、必要により随時変更を行うこととする。

#### (4) 検討案について

事務局から検討案について説明。(配付資料のとおり)

- ・案の1の出前講座のメリットは議員と生徒の意見交換ができること、デメリットは参加議員や会派の選定が難しく、かつ、政治色が出ないように配慮する必要があること。
- ・案の2の県議会体験会のメリットは学校の校外学習や社会科見学に組み込みやすいこと、デメリットは先ほどと同じく議員の選定、政治色の配慮が必要ということと希望制にした場合には、参加校や人数が確保できるかは不透明なこと。
- ・案の3の高校生県議会のメリットは疑似体験することによる意識向上が期待できること、デメリットは議員が主体となって取り組むとの議長会の決議がある中、模擬議会形式だと答弁するのは執行部なため、議員の出番がないこと。

#### (5) 意見交換について

- ・地元の方からよい経験をしたと、大人になっても言ってくれる方もおり、すごい貴重な機会で大変なことだと思っている。また、年齢の引き下げ等で投票率低下や政治離れ等がある中で、県議会の存在というものを何らかの方法でやった方がよいと思うが、子供達の質問を県行政への質問となるように修正することはやむを得ないかもしれないが、疑問があるため変えた方がよいと思う。ただ、セレモニーとして議場に集まるという子供の経験は捨てきれない。出前講座は参加した研修の中で、全国的に実施しているため、非常に効果があるのではないかと思う。
- ・どういう意図で中学生から始まったかわからないと議論が進められないのではないか。中学3年生でなく2年生でもよいのではないか、また6月でなくても9月や12月、議会開会中でなくてもよいのではないかと思う。今までの中学生議会の参加者の感想とどんな内容の質問が多かったか知りたい。小中学校での出前依頼を受けたことがあるが、政治色の懸念で実現しなかったため、公正という意味で何らかの配慮が必要ではないかと思う。議場で行うことも非常に重要だが、議員の仕事はどういうものなのかと知ってもらうことが大事でそれをどのように組み込むかが課題と感じた。
- ・中学3年生の1学期は運動会や色々なことが詰め込まれて大変だということを改めて感じた。教育委員会の学校教育の充実のためのホームページに、施策2の道徳性を高める心の教育の推進の中に、主権者教育を推進しているとあるが、今の教育委員会として、どれだけ主権者教育をやっていきたいのかが大事ではないかと思う。もしそこがやはり現場がとあれば、県議会の議場見学を含める、議員のあり方のところで押さえておいた方がよいのではないかと思う。
- ・これまでの中学生県議会はメリットも多かったと思うため、そこは継承することが必要と思う。また、質問についてはテーマをある程度絞り質問を考えるとそんなに

ずれないため、やり方はあると思う。次回のWGではここまで決める等、段取りをしておかないと議論が散らばってしまうと思う。

- ・記念品など、体感したものを参加した生徒にプレゼントできればよいと思う。参加したくなるような、手挙げが起こるような仕掛けを検討案ミックスでもよいと思う。または、親子や兄弟で参加してもらうのもよいかと思う。
- ・今までの模擬議会形式は、手前の段階で実際に参加する子供の数は限定されていてその手前の段階でどんな準備を踏んでいるのか知りたい。代表で1校2名だと、そのほかの生徒には効果がないのではないか。そのため、どちらかと言えば学校へ出向いて行う方が効果あるのではないかと思う。また、政治色の懸念は検討が必要だと思うが、選出された人を対象にするか、広くやるかの方向性をまず議論するべきではないかと思う。
- ・中学生県議会はよいところはあると思う。選出された人に行うのか、広く行うのかは、おそらく出前講座を行っても、全学校行けないとなるとそれはそれで選定されてしまうと思う。学校に行った場合は、いかに小単位で行えるかというところだと思う。3つともメリット・デメリットあるが、最終的には政治参加に対する体験をってもらうことをどのようにしていくべきかをしっかり議論した上で考えていく必要があると思う。
- ・市議会議員の際に、検討案1と2を行ったことがある。案の1は今年度でも頑張ればできると思う。懸念事項の政治色がでる点に関しては、政治力をださないよう学校から条件があったため、全会派から1人ずつ参加し実施したが、割とうまくいった上、主体性が結構出せる。また、案の2はすごく評判がよかったため、非常によいと思っている。1つでもやりたいのあれば、今年度に行う場合は案の1、来年度以降の場合は案の2、将来的に案の1と案の2のハイブリットがよいと思う。案の3に関しては、事務局側の負担が多いことと、議員の主体性がないため、あまり前向きではない。
- ・1つだけでなく、色々な機会で若い方が関心を持ってくれる取組がよく、負担があると思うが可能な限り増やしていくこと、可視化されることが大事だと思う。本会議場だけの体験だけでなく、色々な主権者教育ではみんなで請願をだす等の取組もあるため、もっと研究できるのではないかと思う。また、それぞれの党派でインターン受け入れ希望の学生が来ると思うが、そのような関心もあると思うため、若い方の政治をもっと知りたい、議員・議会との接点等が、どんどん広がるような出発点になればよいと思う。

## (6) その他

- ・過去のアンケート等あれば次回配付してほしい。
- ・議場に集まった方がよいのか、学校へ行った方がよいのか、教育庁の率直な意見を伺いたい。
- ・次回は8月中に実施予定。